新型コロナウィルス対応の初動において

シビックテックが果たした役割と中長期的課題

〇庄司昌彦（Masahiko Shoji）
Keywords：シビックテック、新型コロナウィルス、オープンデータ、地域情報化、官民連携

１　目的

新型コロナウィルスの世界的な感染拡大への対応は、ワクチンの開発・普及や集団的な免疫獲得により沈静化が実現するまでに数年を要するとも考えられている。本発表では、日本国内でも感染が広がりはじめ移動自粛要請や緊急事態宣言等の対策が行われるようになった 2020 年 1 月から 4 月までの期間を新型コロナウィルス対応の「初動」段階と捉え、この段階において政府・地方自治体や企業ではなく、社会課題に取り組む有志のエンジニア等による活動である「シビックテック」が果たした役割や、情報の可視化やデータ生成等における成果、直面した課題や今後直面しうる課題等を、海外事例も参照しながら整理する。そのうえで、中長期的な新型コロナウィルス対応の中でシビックテック活動がその特性を活かしていくために求められる方策を、活動の継続・発展や平時の活動の観点から考察・提言する。

２　方法

本研究の調査・分析方法は、文献調査に基づく新型コロナウィルス対応「初動」段階における各国における動向の整理と、先行研究等に基づき考察を行った。

３　結果

シビックテック活動は、特に災害発生時などに有志の人々が迅速に行動することでは政府や企業等よりも大きな力を発揮する可能性を持つ。しかし、中長期化する感染拡大への対応やその復興過程では、自発的な活動に支えられているシビックテックの成果をどこまで発展させるか／させないのか、誰が引き継ぐのか／引き継がないのか、といった点を考慮・検討していく必要がある。

４　結論

今後は、シビックテックと地方自治体や地域メディアなど、本業として社会課題への対応に関わっている組織との連携や、シビックテック活動の本業化を進めることが有効だろう。また、オープンデータ活用環境整備や活動支援等を通じて平時からの準備を進めておく必要がある。

【主要参考文献】

１．稲継裕昭（編著）『シビックテック：ICT を使って地域課題を自分たちで解決する』、勁草書房、2018 年
２．瀬戸寿一・関本義秀「地域単位でのシビックテック活動の波及と持続可能性に関する研究　アーバンデータチャレンジにおける取り組みを事例に」『都市計画論文集』53 巻 3 号、p. 1515-1522、2018 年